

第1章

研究の概要

1. 研究の背景

発達障害のある子どもについては、平成13年に文部科学省から公表された「21世紀の特殊教育の在り方」（最終報告）の中で教育的支援を行っていくことが明記されてから、小・中学校の通常の学級等において支援が始められたもので、その支援はまだ始まったばかりである。

この発達障害のある子どもについても、他の障害と同様に、できるだけ早期から支援が開始され、一貫性をもって生涯にわたって継続されることが重要である。平成17年から施行された発達障害者支援法は、発達障害について国と地方自治体が早期発見・早期支援を行うと共に、その後の総合的な支援を行うよう求めている。このように、法に求められていることから国と地方自治体が発達障害者の支援体制の充実を図ることは喫緊の課題である。

このことを踏まえ、国立特別支援教育総合研究所では、平成18～19年度に当研究所のプロジェクト研究として「発達障害のある子どもの早期からの総合的支援システムに関する研究」を行い、「発達障害支援グランドデザイン」をまとめた。次いで義務教育を終了した後の後期中等教育における発達障害のある子どもに対する支援の在り方について、平成20～21年度には重点推進研究「障害のある子どもへの一貫した支援システムに関する研究—後期中等教育における発達障害への支援を中心として—」を行った。

本研究は、早期から社会参加に至る発達障害者への一貫した支援について、これらの研究成果を踏まえて総合的にまとめることを目的として行われた。

2. 研究の方法と経過

発達障害児・者への総合的な支援に関する上記の平成18～21年に行った研究の成果を統合的に検討しまとめた。また、3年前に実地調査を行った早期支援に先進的な試みを行っている地域については、その後の支援の経過や成果、課題について実地調査を行った。その他に、関連する文献・資料の収集と整理、早期支援に関する都道府県等の教育委員会の取り組みに関するアンケート調査、後期中等教育における発達障害支援に関するモデル事業校を中心とした課題と対応の整理を行った。これらから得られた所見に基づき、発達障害の早期発見や早期からの支援に取り組んでいる専門家及び専門機関からなる研究協力者会議において発達障害支援の在り方について総合的な検討を行った。

その結果を踏まえ、平成18～19年のプロジェクト研究において作成した「発達障害グランドデザイン Ver. 1」の再検討を行って改訂し、「発達障害グランドデザイン Ver. 2」を作成した。

3. 本報告における研究のまとめについて

本報告書に研究の成果をまとめるにあたり、第1に今後のわが国における発達障害支援の在り方を提言した「発達障害支援グランドデザイン Ver. 2」を中心に据えた。この発達障害グランドデザインの7つの大項目とそれぞれの大項目の中にある各小項目について説明を加えた。

その後に第3章として、グランドデザインを検討し作成する際に元になった早期支援の実地調査を行った5市についての報告を行い、その中で課題とされた「子育て支援ファイル」が実際に活用されるための方策等についての検討結果を述べ、この項目の最後に地域事例から考えられる課題と展望を述べた。

第4章には、平成20～21年に行った後期中等教育における発達障害のある子どもの支援に関する研究の成果から主要な課題をまとめた。グランドデザインの Ver. 2 への改訂において、Ver. 1 にお

いては十分に解明できていなかった後期中等教育段階における支援の在り方については、この章にあるような所見に基づいて課題を整理して改訂を行った。

第5章には、発達障害児・者の支援システムの構築において行政の立場から重要な役割を担う各都道府県の教育委員会における取り組みの現状についてアンケート調査の結果をまとめた。

最後に、発達障害児・者への一貫した総合的な支援の在り方について、今後の課題及び展望についてまとめた。

(渥美 義賢)